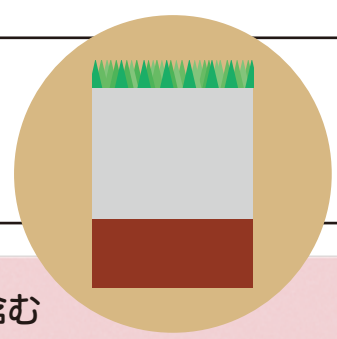


H 目砂層厚型 サンディグリーン・土グリーン



特徴

- ・黒土、赤土、マサ土など、シルトや粘土を含む土壌を主体に造成されたグリーンである。
- ・目砂層が厚さ15cm以上ある。

解説

土グリーンは主にシルト（0.05mm以下の粒子）や粘土（0.01mm以下の粒子）からなるため排水や通気に劣り、土壌も固結しやすくなります。造成後20年近く経ったグリーン、コウライからベントへ改修されたグリーンなどに見られる土壌断面です。長年の目砂によって表層に砂の層が厚く形成され、ある程度のサンド構造となって著しい排水不良には至っていない場合もあります。しかし、目砂の種類によっては表層土が乾きやすく乾燥害が起こりやすくなります。土の層の固結や、暗渠排水が機能しなくなっているケースも多く、降雨の際には目砂層は過飽和状態となります。このような土壌環境の中でベントグラスは乾燥・過湿の両ストレスを受けています。

対策

ドリルエアレーション、ディープエアレーション、シャットリング等の深層エアレーションを定期的に行い、透水性を維持することが大切です。

このようなケースでは、深さ20cm より深い位置に固結層があることが多いので、土壌調査を行い適切な作業の種類や施工深度を検討しましょう。暗渠排水が整備されていないなど、下層での排水が期待できない場合には、暗渠排水工事やPC ドレーン工を行うことも必要でしょう。